バレンシア工科大学



Universitat Politècnica de València (UPV)

留学報告書

高知工科大学 経済・マネジメント学群 田場統子





私は今回、2018年1月から2018年6月までの半年間、スペイン・バレンシア工科大学(以下UPVとする)、School of Industrial Engineering に科目履修留学をしました。UPV はスペインの第三の都市・バレンシアに位置しており、エラスムスと呼ばれるヨーロッパの国際交流プログラムがとても活発に行われています。私がバレンシアで得た経験の報告と海外留学やヨーロッパ、スペインに興味をもっている方への参考として、この報告書に書き留めていきたいと思います。

[留学を志すまでの経緯]

私が海外留学を考え始めたのは、大学1年次に参加したタイ・シンガポール海外研修からです。そこで訪れたシンガポールの多種多様な人種・言語、画期的な政策にとても驚き、日本より何歩も先を行っている先進国だと実感しました。しかし、海外研修は海外で数週間を現地留学生と過ごすにしても、ホテルに帰れば日本人

学生と日本語で会話をすることができるので、私の中では物足りなさがありました。

また、私は今まで部活や大学受験、大学でのテストなどを経験してきましたが、一生懸命頑張ったかと聞か れると、そうではありませんでした。そこで考え始めたのが海外留学です。大学生のうちに、日本人が少ない ところで自分がどこまで頑張れるのか試したい気持ちがあったので交換留学を目指すようになりました。バレ ンシアを留学先に選んだ理由は、現地人の顔が日本人と全く違う場所、自分が外国人であることが歩いていて 分かる場所に住んでみたかったことと、英語を学びながら第二言語も学びたかったからです。

「留学手続き】

私の場合、留学申請時期が通常時期よりも遅かったため独特な手続きになりました。留学が決まった日から 約3ヶ月後に渡航しなければいけないという中で、色々トラブルがありましたが、中でもビザにはとても大変 な思いをさせられました。最終的にパスポートを渡航日の3日前に受け取るという慌ただしい日程の中での出 国だったため、スペイン語の勉強が全くできず、スペイン語能力ゼロの状態のままスペインに向かってしまっ たことが心残りです。

「バレンシアでの生活】

1. 気候

バレンシアは地中海性気候なので年中温暖で比較的住みやすい環境です。私が留学 していた半年間の中で、雨の日は合計で1週間ほどしかありませんでした。

2. 食べ物

物価は、他のヨーロッパ諸国と比べると非常に安いです。衣料品は日本と同じで、 食料品は日本よりも安かったです。野菜やフルーツが特に安く、りんごが1つ30 円、トマトが1つ30円くらいで売っていました。スペインではお米を食べる文化が あるので日本人にも馴染みやすく、スペインの中でもバレンシアは地中海に面して いるため、パエリアなどの魚介を使った料理が有名です。また、スペイン人は1日 に5回も食事をしており、具体的に言うと、8時頃に朝食、11時頃にサンドイッ チや Bocadillo を食べる Almuerzo、2 時頃に昼食、6 時頃に Merienda、10 時頃に 夕食をとります。UPV 近くの大手ファーストフード店であっても日本時間の昼食 である 12 時にはまだオープンしていなかったので、時差よりもお腹の調整が必要 でした。



バレンシアで食べたパエリア



Almuerzo でよく食べられる Bocadillo

3. 住居

私にとって、バレンシアでの生活で1番大変だったのはフラットを探すことで した。渡航前に、UPV の国際交流部から UPV が斡旋するフラット検索サイトを 教えられましたが、全てスペイン語だったため、日本にいる間は良い情報を見つ けることができませんでした。スペインに行ってからはホステルを1週間ほど借 りながら、フラットの情報をネットで探しました。ヨーロッパ全体の検索サイト がスペインでもよく使われているので、サイトは英語でしたが、下見に行く時は



私が借りていたフラットのリビング

現地のオーナーと会話をするので、やはりスペイン語が必要になってきます。 私の場合、ネットに情報を公開していた 10 人のオーナーのうちの 2 人にしか 連絡がとれず、そのうちの 1 つと半年間の契約をして、無事にフラットを借り ることができました。学生はほとんど英語が話せますが、オーナーや店舗のス タッフなどのバレンシアの一般の人達はあまり英語が話せません。フラットや Wifi、携帯電話の契約などにスペイン語が必要になってくる状況が必ず出てく るので、高知工科大学に留学中のスペイン人学生と、事前にスペイン語を勉強 をしたり、現地で頼れるスペイン人学生が出来れば、きっとバレンシアでの生 活で助けになると思います。



[バレンシアでの大学生活]

1. UPV の授業登録のシステム

UPV の授業登録の仕方は高知工科大学とは全く異なっており、授業時間別に奇麗にまとめられた時間割表が配られるわけではありません。学部別に科目名と授業時間がネットで掲載されており、スペイン人学生も自分の学部のことしか分からないという学生も多いので、他学部で開講される科目を履修するとなると、また履修登録が難しくなってきます。登録科目や授業登録を自分で確認するという工科大でいうポータルシステムのようなもの(AIRE)というものがありますが、これもスペイン語で最初はどのボタンを押したら授業登録画面に進むのかも分かりませんでした。私はフラットメイトにも助けてもらい、やっと授業登録を終えました。

2. 受講した専門授業について

UPVでは授業編成を理論的な授業と実践的な授業の2つに分けています。私が受講した「Ingles B2」の授業は、事前に日本で履修登録をしていた「Technical English」が開講されていなかった為、代わりに UPV の国際交流部から勧められた科目です。授業科目の表記の通り、スペイン人の為の英語教育でしたが、ビジネスに関することも多く取り上げられていました。例えば、実践の授業では、世界に進出している国際企業で起こりうるビジネスの問題についての動画を見て、ディスカッションやプレゼンテーションを行いました。私は「Intercultural Communication」について、ビジネスの場で日本人とスペイン人が一緒に働いた場合、どのような誤解が生まれてしまうのか、というプレゼンテーションを行いました。

授業について高知工科大学と UPV で違う点は、学生の積極性だと思います。スペイン人はオンとオフがはっきりしているので、遊ぶのなら遊ぶ、勉強するのなら勉強するという感じで、時間をきっちり分けようとします。先生に対しても同じで、私が授業後に質問に行った際、「授業は終わったよ。ごはんを食べに行くから。」

と断られたことは衝撃でした。その為、スペイン人学生は授業のうちに 質問をしようとするので、日本よりも授業は活発に行われます。



3. スペイン語の授業

UPVの語学のクラスはレベル分けされており、語学能力の高い順から C、B、Aに分けられます。学部別のオリエンテーションの際に配布された 資料では A2 までのクラスがあり、私はスペイン語が全く分からなかった ので、資料の通り 1 番下のクラスである A2 を選択しました。しかし、 UPV の国際交流部のスタッフによると、スペイン語の発音に慣れないアジア人の為に、A2 よりも低い A1 クラスが開講されているとのことでした。 私はその A1 クラスへ変更し、専門科目の授業開始から 2 週間ほど遅れてスペイン語の授業が開始されました。専門科目の授業ではアジア人は私 1 人だけだったのにも関わらず、スペイン語の授業は大多数がアジア人だっ



たので、スペイン語の教室に入った途端、安心感を抱いたのを覚えています。また、専門科目とは違い、きちんとレベル分けがされているので、自分にあったスピードでスペイン語を学ぶことができました。クラスメートの友人達との会話に少しずつスペイン語が増えていくのが実感できて、スペイン語を学んでいて楽しかったです。

[まとめ]

バレンシアでの半年間はとても刺激的で、日本では味わえない貴重な経験を得ることができました。渡航前は英語を頭で組み立ててから口に出すという方法で英語を話していましたが、授業はもちろん、友人達とのコミュニケーションの中で少しずつ、英語を話すことへの抵抗が少なくなっていき、頭で考えずに英語を話すことが出来るようになりました。日本で学んでいた座学の英語を使わなくなったという訳ではなく、やはり文法や単語力などの土台があってからこそ、スピーキングも上達していくのではないかと感じます。

日本から遠い異国に一人で暮らすことは簡単なことではなく、挫折や寂しさも感じましたが、帰国した今、それらを通して精神的にも一段と強くなれたことが分かりました。また、この交換留学を通して、ヨーロッパ経済やスペインの実態など、自分で見て、聞いて、考えた事は一生忘れることの出来ない大切なものになりました。

最後に、交換留学を支えてくれた高知工科大学国際交流部の皆様、そして先生方に心から感謝致します。